

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072100454
法人名	有限会社 かしわ
事業所名	グループホームみさと
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢620-1 (電話) 027-371-6389

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年2月28日

## 【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3人, 非常勤 8人, 常勤換算	6.0人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円

### (4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 79歳	最低	71歳	最高	88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉原クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心にゆとりのあるその人らしい生活が送れること」、「趣味や特技を活かし役割や楽しみのある生活ができるようにすること」を理念に掲げ、日々実践されている。催事では誕生日を特別な日とし、プレゼントの品物は入居者が自分で決められるように支援し、買物には職員が同行している。又、誕生日には入居者の好みを聞いた献立としている。かかりつけ医の受診についても職員が同行して、日々の様子や体調について医師に報告する支援をしている。ホールを囲むように造られている居室には入居者それぞれの好みの写真や壁飾りなどが貼られており、安心して過ごせる空間となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の結果は運営推進会議や職員会議で報告している。前回の評価時、食事摂取状況は摂取した場合丸印を付けて把握していたが、その後食事摂取量の記録をするように改善した。日中鍵をかけない工夫については改善されていないので、職員の見守りの方法を徹底するなどして鍵をかけない工夫をしていただきたい。改善課題についての取り組み状況の経過は記録していない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の記入は常勤職員3人で書き上げたが、他の職員全員も目を通し周知されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月に1回行われている。メンバーの構成員が確立していない為にその都度声掛けをして参加を依頼している。会議では、ホームの状況や評価の報告、入居者の健康状態等を報告している。家族会はなくその時々参加者に要望や希望を聞いている。衣服の調整について意見が出されサービスにつながっている。今後はメンバーの確立を図り「みさと」独自の運営推進会議が行われることを期待する。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への定期的な報告はされていない。面会時にホームでの暮らしぶりや健康状態等の報告をしている。毎月面会に来られない家族には3か月に1回運営会議議事録を郵送している。ホームの玄関に苦情処理箱は設置してあるが、これまでに利用はみられていない。ホーム以外の苦情申し立て機関を明示されることを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近所の方と日常的な挨拶はいつもしているが、地域の一人として地域活動に参加する機会がきわめて少ない。自治会に入会していないので、広報や回覧板がまわってきていない。しかし地域の音楽ボランティア、出張美容師、化粧品ボランティア等の協力はいただいている。自治会などへの入会を検討され、入居者が地域の行事に気軽に参加できるよう努力されることを期待する。</p>

## 2. 評価報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心にゆとりのあるその人らしい生活が送れること」、「趣味や特技を活かし、役割や楽しみのある生活ができるようにすること」を理念に掲げ、日々実践されている。パンフレットには事業所独自の理念が盛り込まれていてわかりやすいものになっているが、理念は開所時に作られたものであり、今後地域に密着した理念にすべく考えているところである。	○	地域密着型サービスとして地域のニーズを踏まえた理念の検討は大切である。「地域の中でその人らしく暮らし続ける支援」を踏まえ、地域密着型サービスの意義を盛り込んだ事業所独自の理念づくりあげを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホール中央の壁に大きく書かれ掲示されている。管理者と職員は理念を意識した実践ができるように更衣室にも貼って日々理念を確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方と日常的な挨拶はしているが、地域の一員として地域活動に参加する機会が少ない。自治会に加入していないので、回覧板もきていない。	○	地域の一員として地域活動に参加し、地元の人々と交流の機会を増やす意義や方法について、経営者と管理者が積極的に意見交換をすることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は常勤職員3名で作成し、他の職員も全員目を通して。前回の外部評価の結果については運営推進会議や職員会議で報告し討議している。評価を活かして入浴、施設、食事チェック等具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は平成18年8月が初回で、その後3か月に1回開催し、ホームの状況等について報告されている。構成メンバーは家族代表1名、入居者家族2人、元職員でボランティア1名、区長(一般住民として)1名、市の福祉課職員1～2名であるが構成員は流動的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターには、ティッシュペーパーを丸めてしまう入居者の対応方法について電話で相談したことがある。しかし、日頃からホームの取り組みや状況について、担当者への報告がされていない。	○	事業所の実情や取組状況等の情報を、市に提供し情報交換をすることは大切なことである。運営推進会議以外にも積極的に市と行き来する機会をつくり、今後のサービス向上につながる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会は月に1回以上の方や3か月に1回の方等さまざまであるが、面会時に個々の暮らし振りや健康状態等を報告している。行事案内や職員の異動等については運営推進会議議事録に記載し、家族全員に送付し報告としている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が集う場は敬老会行事や運営推進会議であり、その際にホームのケアサービスへの感謝の気持ちや利用料について意見をいただいている。苦情箱は、玄関に設置している。	○	運営に関する家族等の意見が外部者へ表せるように複数の苦情相談窓口(市役所、国保連合会)の電話番号を、重要事項説明書等に明記していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、「赤ちゃんが産まれるんでまた遊びに来るよ」等と離職する職員から入居者にやんわりと話をしたり、また、新入職員の紹介はレクリエーションの時に話をする等、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会に職員は交代で参加し、参加した職員は報告書を記入し会議等で報告を行い、全員で共有している。救命講習(AEDの使い方)には消防署の協力を得て全員が参加している。日々の業務の中で先輩職員にききやすい雰囲気を作り、新入職員の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、同業者と交流する機会を設けている。今年度他の事業所との交換研修はなかったが、前年度は行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者と家族にホームを見学してもらい、お茶を飲むなどして場の雰囲気に馴染めるようにしている。入居した方は雰囲気に馴染めるまで、家族の面会を多くしてもらうなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に作業している時に、入居者から昔の行事や群馬の風習、苦労話を聞く等、職員と一緒に過ごしながらか人生の先輩から生き方を学んだり、喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけをし、一人ひとりの思いを聞いたり、入居者同士のさりげない会話の中から希望や意向の把握に努めている。希望を表出できない入居者に対しては、望んでいることを想像し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望、担当職員の意見、サービス担当者会議での意見、主治医の意見(受診時に職員が同行)等を聞いて介護支援専門員が入居者本位の介護計画を3か月毎に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しをしている。退院後や介護度の変更があった場合には本人、家族、必要な関係者と相談しながら現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診には職員が必ず同行している。誕生日のプレゼント購入は入居者が好きな品物を選定し、買物に行けるよう個別支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居前のかかりつけ医に、現在5人の方が受診しており、受診時には職員が同行して日頃の様子を伝えている。嘱託医師には4人が受診していて、受診時には職員が同行したり、時に往診を依頼することもある。歯科医師には週に1回往診をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針として、重度化や終末期の入居者への対応は、医療機関での対応としている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、排泄の介助・食事の介助時においても、十分に配慮し、プライバシーを損ねるような対応は見られない。介護日誌、排泄・食事チェック表などの記録物は、事務所で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食後はコタツで寝ていたり、ソファーに座っていたり、パズルをしたり、歌を歌ったりと各人が自分のペースでゆったり穏やかに過ごしている。一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食材を切ったり、ゆで卵・野菜の皮むき等の下準備や、食器拭き等を職員と一緒にしている。週に3日間は入居者の希望を聞きながら、職員が献立づくりをしている。食事が楽しみなものになるように入居者の誕生日には入居者本人の好みを聞いた献立としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回、14時～16時の間に3人の方に入浴していただくので、ゆっくり入浴を楽しむことができる。入浴順、湯加減については本人の希望に合わせている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、入居者個々に合った役割や出番を作り、声かけをしながら、新聞たたみ・フロアの掃除・食器ふきなどをしてもらっている。カラオケをしたり、本を読んだり、「数独」なる数のゲームのような遊びを実に楽しそうにされている人もいたり、気晴らしの支援をされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近郊にお花見の出来る場所が多く、花見の帰りにラーメン屋や回転寿司に立寄って外食を楽しんだり、お弁当を持参しての外出支援をしている。近隣への散歩やドライブ等を行い、戸外で過ごす機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室と玄関には鍵をかけていないが、玄関から歩いて20歩の所にある門は、ホームが坂道と見通しの悪い道路に面していて危険であるため、施錠している。入居者の状況によって施錠しない日もある。	○	入居者の状況によって門を施錠しない日もあるので、職員の見守りの方法を徹底したり、入居者のその日の気分や状態を分析するなどして日中、門を施錠しないよう取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回行っている。事務室の壁には町の救急ガイドマニュアル、火災発生時の119番通報手順等を貼っている。消火器や懐中電灯は備品として用意されている。	○	重要事項説明書に近隣区会と防災協定を締結と書かれていたが、確認できなかった。日頃より地域の人々の協力が得られるように働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週に4日は、食材を外部委託しているのでカロリー計算がされている。週に3日は、職員が栄養バランスを考えて献立を作っている。栄養摂取量、水分摂取量は記録しており、水分摂取量は1日につき1450CCを確保するように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりしたスペースのホールからは、窓越しに表を通る車や人、花等を眺めることができる。一角に設けられた和室にはこたつやテレビが置かれ、昼食後にのんびりと過ごしたり、ソファーに腰掛けて会話をされている。またテーブルの椅子は障害に合わせた工夫がされている。清潔な環境で居心地のよい共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた衣装ケース、テレビ、ポータブルトイレ、ベット等が持ち込まれている。壁には誕生会でもらった写真入りの色紙が何枚も貼られている。また、カレンダー、相撲、歌舞伎等のお気に入りの絵が貼られ入居者が居心地よく過ごせるように工夫されている。居室入口には入居者の今年の目標が書かれている。		